

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う
特別支援学校の各教科（段階表）

【 中学部 】

本表に示してある各教科の「内容別ポイント」は、「特別支援学校教育要領・学習指導要領 説明会 配布資料」文部科学省（平成 29 年 7 月）の中の主要な部分を引用して作成したものです。

指導に当たっては、同資料又は「特別支援学校学習指導要領解説」を確認し、指導内容を選択して指導計画を作成した上で適切に行ってください。

各教科の目標と内容： 中学部 国語

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	2段階	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
1段階	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。

【内容】

	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	A 聞くこと・話すこと	B 書くこと	C 読むこと
2段階	(7) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。 (ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。 (エ) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。 (オ) 修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。 (カ) 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。 (キ) 内容の大体を意識しながら音読すること。	(7) 考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	(7) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ⑧ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (イ) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。 イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。 エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。 オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。	ア 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。 ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。 オ 文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。	ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 イ 語と語や文と文との関係を基に、出来事や順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。 エ 中心となる語句や文を明確にしながらかくこと。 オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
1段階	(7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。 (ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。 (エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 (オ) 主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。 (カ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。 (キ) 語のまとまりに気を付けて音読すること。	(7) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	(7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ⑧ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。 (イ) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたりして、話の大体を捉えること。 イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。 エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。 オ 相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。	ア 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容をだまかにまとめること。 イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。 エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを直すこと。 オ 文章に対する感想をもち、伝え合うこと。	ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活で必要な語句や文章などを読み、行動すること。 エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。

各教科の内容： 中学部 国語（内容別ポイント）

段階別 ポイント	1 段階	2 段階
	<p>1 段階の生徒は、身近な事物や人だけでなく、地域や社会における事物や人との関わりが増えてくる。このような生活を通して様々な言葉に触れることで、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いたり、知っている言葉や新たに獲得した言葉の使い方に気を付けることで、様々な事象や気持ちに関して多くの相手と伝え合うことができるようになることに気付いたりする段階である。</p> <p>生徒の生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉で様々な情報を得たり人の思いや考えに触れたりする経験や、自分の思いや考えをまとめたり相手に分かりやすく伝えたりする経験を積み重ねることを通して、日常生活や社会生活に必要な国語を身に付けることが大切である。</p>	<p>2 段階の生徒は、地域や社会における事物や人との関わりを広げ、繰り返しながら、様々な言葉に触れることで、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いたり、相手や目的に応じて工夫をしながら伝え合おうとしたりする段階である。</p> <p>生徒の生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉を用いて伝えたいことを明確にして伝えたり、対話の経験を積み重ねたりすることを通して、高等部での職業教育などを意識しながら、将来の職業生活に必要な国語を身に付けることが大切である。</p>

【内容別ポイント】

	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	A 聞くこと・話すこと	B 書くこと	C 読むこと
2 段階	<p>日常生活の中で周りの人と言葉を用いてやり取りすることで、自分の思いや考えをまとめたり、事物の内容や自分が経験したことを周りの人に表現したり伝達したりする経験を重ねることが大切である。</p> <p>(イ)は、話す内容に応じて、声の上げ下げに注意したり、特定の語や表現の一部を他よりも強調したりして、話す内容が相手に伝わるようにすることが大切である。</p> <p>「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」をしっかりと押さえて、様子がわかるように工夫してゆくり読ませるようにすることが有効である。</p>	<p>事物の説明や経験を相手に分かるように報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする上で、考えとそれを支える理由を明確にすることが大切である。</p> <p>2 段階から設定している「必要な語や語句の書き留め方」とは、情報を集めたり、発信したりする場合に落としはけない語や語句を選んで書き留めることである。また、「比べ方」については、自分の考えと相手の考えの同じところや違うところを見つけ比べることなどを通して、得た情報を整理して活用することを意図して設定した。</p>	<p>交通安全や火災予防など日常生活の中で目にする多くの標語なども取り上げ、日常生活に生かせるようにすることが大切である。</p> <p>極端にゆがんだ形を生まないように、生徒には、文字のおおよその形を把握した上で書くように指導することが求められる。</p> <p>読みやすい文や文章を書くために、一文字一文字を整えることに加え、文字の集まりという面から整えることが重要である。したがって、書き出しの位置を決めること、行の中心に文字の中心をそろえるように書くことなどが求められる。</p>	<p>伝えたい目的を明確にして話すよう指導することが大切になる。また、目的を意識することは、「話題の設定」以外の学習過程においても重要である。</p> <p>ウの「伝える順序や伝え方を考えること」とは、話す内容を構成するとき、伝えたい事柄や考え、気持ちだけを話すのではなく、必要に応じて理由や事例を付け加えながら、相手に伝わるように話を構成するなどの伝える順序や伝え方の工夫を示している。</p> <p>自分や友達の発表の様子を録画し、観点に沿って振り返るなど、ICT 機器を活用することも効果的である。</p> <p>「考えをまとめる」ためには、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら、話し合いを進めることが重要である。</p>	<p>書いた文章を相手がどのように受け止めるかについて考えさせたり、具体的な生活の中で必要となるものを取り上げるようにしたりする。</p> <p>実際に見聞きしたことや経験したことを思い出し、それを手掛かりにして書く事柄を決め、情報を整理しながら伝えたいことを明確にしていく。</p> <p>自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を構成する。</p> <p>事実を客観的に書くこととともに、その事実と自分の考えとの関係を十分捉えて書くことが重要である。</p>	<p>例えば、説明書を読むことによって、作品を作ったり調理したりすることができるように計画し、その作業を通して学習への興味・意欲が喚起できるようにすることが望ましい。作品などを作り上げる喜びを味わい、文章から必要な情報を読み取ることが作業につながっていることを実感することで、注意書きや説明書を進んで生活に生かそうとする態度を身に付けることが期待できる。</p> <p>将来の社会生活や職業生活において、説明書の理解が必要であることから、実生活における様々な説明書などを取り上げて指導することが大切である。</p>
1 段階	<p>助詞の「は」、「へ」及び「を」については、視写や聴写の指導の中で、繰り返し使う機会を設けることが必要である。</p> <p>(イ)は、小学部3段階の学習を基にして、語句相互の意味関係を理解し、語句には同義語や対義語、上位語・下位語、同音異義語、多義的な意味を表す語句などがあつたり、「橋」と「箸」、「雨」と「鉛」など、同音でもアクセントによって意味が異なる場合があつたりすることに気付くこと。</p> <p>(イ)においては、(イ)の「発音や声の大きさに気を付けて話す」と関連付けて指導することが重要である。</p>	<p>「情報と情報との関係」と「情報の整理」で内容を構成しているが、1 段階では「情報と情報との関係」のみ扱うこととしている。</p> <p>「いつ」誰が何をしたなど、内容の時間的な順序に気を付けながら情報を整理すること。</p>	<p>我が国には、言葉の響きやリズム、言葉が表す情景を楽しむ文化があることを知り、我が国の言語文化を理解しようとする態度につなげることができるようになることが大切である。</p> <p>書いた文字を自分や周りの人が読むことができるように、文字の形を整えて書けるようになることが大切である。</p> <p>1 段階の生徒にふさわしいいろいろな文章に接し、情景や心情を読み取ることで情操を深めていけるようになることが大切である。</p>	<p>ウは「内容と構成の検討」に関する事項である。伝えたい事柄を順序立てて構成することを示している。</p> <p>エは「表現」に関する事項である。丁寧な言葉を使うなど、話す相手や場面に応じた言葉遣いを考えて話すことを示している。</p> <p>オは「話し合い」に関する事項である。話の大体の内容を整理したりまとめたりして分かったことや感じたことを伝え合い、伝え合ったことを通して、自分の考えや感想をもつことを示している。</p>	<p>イは「内容と構成の検討」に関する事項である。文章には「初めー中ー終わり」などの構成があることを意識できるようにすることが重要である。</p> <p>ウは「記述」に関する事項である。前後の語句のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語句と語句の続き方を考えるときともに、離れたところにある語句と語句とのつながりについても考えることが大切である。</p> <p>エは「推敲」に関する事項である。間違えに気付いて直すことでよりよく伝わる文章になることを実感できるようにすることが大切である。</p>	<p>ウは「精査・解釈」に関する事項である。学校や町、公共施設等で見かける、校内の各教室の名前、指示を知らせる標識や案内板などが表す意味を考え、行動することを示している。また、生活に必要な身近なものの使用法や簡単な調理法の説明書、領収書などを読む、興味のある新聞記事や雑誌などを読むなどして、楽しく、潤いのある生活を送ることができるようにすることが大切である。</p> <p>エは「考えの形成」に関する事項である。読み取った内容が適切か自分で再考するとともに、印象に残ったフレーズ等を選んだり、文章全体の印象を自分なりの言葉で表現したりすることを示している。</p>

各教科の内容：中学部 国語（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

（１）指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを身に付け自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

イ ２の各段階の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。

ウ ２の各段階の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ聞くこと・話すこと」に関する指導については、生活に必要な話し言葉を身に付け、活用できるよう指導すること。

エ ２の各段階の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ書くこと」に関する指導については、筆記用具を用いる技能の指導に偏ることなく、文章を書く場面を設けるよう工夫すること。

オ ２の各段階の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｃ読むこと」に関する指導については、発達の段階に応じた様々な文章に接し、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等における読書の指導や学校図書館等における指導との関連を図るようにすること。

内容の取扱い

（２）２の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア ２の各段階の内容のうち、文字に関する事項については、次のとおり取り扱うこと。

（ア）生活場面や関わる相手が多様になることに応じて、平仮名、片仮名、漢字に加えてローマ字などの文字を取り扱うようにすること。

（イ）これまでに学習した句読点の使い方や長音、撥音などの表記について、中学部においても正しくより適切に用いることができるよう引き続き指導すること。

イ ２の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、生徒が必要な本を選ぶことができるよう配慮すること。

ウ 教材の取扱いについては、次の事項に留意すること。

（ア）生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じ、興味・関心のある話題や身近な題材から、日常生活や社会生活及び職業生活に関連する題材まで、様々な種類や形式の文、文章を取り扱う機会を設けること。

（イ）読み物教材としては、登場人物の行動や言葉から心情を読み取りやすいものや、情景が思い浮かびやすいものを選ぶこと。また、生徒の生活範囲が広がり、生活する力が高まるような内容の教材を選ぶこと。

各教科の目標と内容：中学部 社会

目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心を持ち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 (3) 社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。			
	日常生活に関わる社会的事象が分かり（社会的事象について理解し）、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。			
	2段階	知識及び技能 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。	学びに向かう力、人間性等 社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。
	1段階	身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関わりが分かるとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。	身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。

【内容】

	ア 社会参加ときまり	イ 公共施設と制度	ウ 地域の安全	エ 産業と生活	オ 我が国の地理や歴史	カ 外国の様子
2段階	(7) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。 ⑧ 周囲の状況を判断し、集団生活の中で自分の役割と責任について考え、表現すること。 (4) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。 ⑧ 社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。	(7) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ⑧ 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。 (4) 制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 社会に関する基本的な制度について理解すること。 ⑧ 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。	(7) 地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力を対して対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしておくことを理解すること。 ⑧ 過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。	(7) 県内の特色ある地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。 ⑧ 人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。 (4) 生活を支える事業に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。 ⑧ 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。	(7) 身近な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 自分たちの県の概要を理解すること。 ⑧ 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。 (4) 県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを調べる。 ⑧ 歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。	(7) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 文化や風習の特徴や違いを理解すること。 ⑧ 人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。 (4) 世界の様々な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 人々の生活の様子を大まかに理解すること。 ⑧ 世界の出来事などに着目して、それらの国の人々の生活の様子を捉え、交流することの大切さを考え、表現すること。
1段階	(7) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中で役割を果たすための知識や技能を身に付けること。 ⑧ 集団生活の中で何が必要かに気づき、自分の役割を考え、表現すること。 (4) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。 ⑧ 社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。	(7) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。 ⑧ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。 (4) 制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 身近な生活に関する制度が分かること。 ⑧ 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。	(7) 地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。 ⑧ 地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに携わる人々の働きを考え、表現すること。	(7) 仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。 ⑧ 仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。 (4) 身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。 ⑧ 消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。	(7) 身近な地域や市町村（以下第2章第2節第2款において「市」という。）の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。 ⑧ 都道府県（以下第2章第2節第2款第1〔社会〕(2)内容において「県」という。）内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。 (4) 身近な地域の移り変わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを調べる。 ⑧ 交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。	(7) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 文化や風習の特徴や違いを知ること。 ⑧ そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。

各教科の内容：中学部 社会（内容別ポイント）

段階別 ポイント	1段階	2段階
	<p>身近な地域で見たことや聞いたことと自分の生活を結び付けることが難しい生徒の指導に当たっては、自分の生活との共通点に着目させ、地図や資料等を使ってより具体的に調べまとめることが大切である。</p> <p>自分で考えたことを意見として述べたり、相手や他者の立場を考えて話し合いに参加したりするなど、主体的に社会参加するための素地を作ることが大切である。</p> <p>自分も地域社会の一員であるという自覚をもつとともに、地域の発展のために周りの人と協力しようとする主体的な態度などを養うようにすることが大切である。</p>	<p>1段階で主に自分との関わりの中で社会的事象を捉えていたことを一歩進め、2段階では自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、地域の人々の生活との関連を考慮することを通して、理解できるようにする。</p> <p>1段階で身に付けた「基礎的な力」を発展させ、自分が考えたことを、効果的に説明したり、話し合ったりする力を育成するために、具体的な事実を述べることにとどまらず、他者の主張に関連させたり、立場や根拠を明確にしたうえで意見を述べたりして、社会的事象の特色や意味などについて自分の考えをもつことを目指している。</p> <p>「社会に自ら関わろうとする意欲」とは、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境、安全な社会を実現し、維持していくために、生徒一人一人が学んだことを生かして社会生活を送ろうとすることである。</p>

【内容別ポイント】

	ア 社会参加ときまり	イ 公共施設と制度	ウ 地域の安全	エ 産業と生活	オ 我が国の地理や歴史	カ 外国の様子
2段階	<p>よりよい集団生活のために、周囲の人と意見交換をしながら協力し合うことの必要性を理解したり、周囲の状況を捉え判断し、自分がすべき役割とその責任について考えたりすることができるよう指導する。また、きまりについては、1段階のきまりの意義への気付きを基に、きまりの意義を考え、その必要性を理解した上で、きまりを守ることに指導する。</p>	<p>公共施設や公共物の必要性について考え、利用に必要な知識や技能を身に付けられるよう指導する。また、社会に関する基本的な制度について理解し、制度を活用することで人々の生活が快適に円滑に営まれることについて気付き、制度の意味や必要性について考えられるよう指導する。</p>	<p>「地域」を、1段階で学ぶ自分が住んでいる市に加え、自分の住んでいる県までを範囲とする。また、市や県が単独で活動しているのではなく、連携して地域の安全を守っていることをおさえ、様々な協力の下、災害に対する備えをしていることを指導する。</p>	<p>1段階で学ぶ身近な産業から発展し、県内の特色ある地域における産業を取り上げ、その特徴や従事する人々の働きについて考えられるように指導したり、生活を支える事業の内容や必要性について考えられるようにしたりする。</p>	<p>1段階で学ぶ自分が住んでいる市に加え、自分の住んでいる都道府県までを範囲とする。</p>	<p>生徒の生活に関係の深い題材を中心に学習した1段階から発展し、日本と他の国との大まかな違いについてわかるように指導する。</p>
1段階	<p>将来の社会参加につなげるために、自分の役割を果たす価値やきまりを守る意義を、身近な家庭、学校、地域社会の中で、具体的な活動を通して気付けさせ、自ら考えて行動できるようにすることが大切である。</p> <p>集団生活において役割を果たすために、自分の考えを明確にする、相手の立場を考える、相手の助言を聞くなどの活動を通して、役割を果たすために必要な知識や技能を身に付けることができるようにする。また、身近な生活の中には様々なきまりがあることを知り、なぜきまりを守るのか、その意義に気付いた上で、きまりを守ることの大切さが分かるようにする。</p>	<p>日常生活の中での公共施設の役割や行政サービスの内容や必要性、身近な生活に関わる制度や社会に関する基本的な制度について分かるようにする。その際、公共施設や制度が、自分や自分を含めた社会で暮らす人々にとって、円滑で快適に生活できることに役立っていることを理解することが大切である。</p> <p>身近な公共施設や公共物の役割や身近な制度について分かり、自分の生活との関連について考えられるよう指導する。</p>	<p>小学部生活科（3段階）では、「(イ)安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること」を扱うこととしている。これを受け、身の回りの安全や防災は自分だけではなく、関係機関や地域の人々との協力で成り立っていることまで広げて指導する。</p> <p>小学部生活科では自分自身の安全について学ぶが、中学部では、自分自身に加え、人々の安全を守るための関係機関の役割とそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力について指導する。</p>	<p>身近な社会には、生産や販売、生活を支える事業に関する仕事と関わりがあることについて指導する。</p> <p>産業は、生産、運輸、販売、消費に関する活動を指し、例えば、農業や漁業、林業、工業、物流、販売などがある。これらについて、身近な活動を実際に見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、興味・関心を高め、自分の生活との関わりについて考えられるようにすることが大切である。</p> <p>生徒にとって身近な生産活動や販売活動などを取り上げ、その仕事や生産物、商品に注目し、人々の生活との関わりについて考えられるよう指導する。</p>	<p>我が国の国土に関する地理的な事象、歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連について、具体的な活動を通して気付けさせ、考えられるように指導する。</p> <p>1段階で示す「地域」は、自分の住んでいる市区町村までの範囲とする。地域の様子や移り変わりに関して取り上げ、特徴的な違いに気付けるようにする。</p>	<p>世界各国の生活習慣、文化、子供の生活、あいさつ、マナー、自然、産業、歴史的背景及び最近の文化やスポーツ等の出来事について取り上げ、異なる文化や習慣を知る。</p> <p>世界の国のうち1か国か2か国を選んで、生徒の生活に関係の深い題材を取り上げるようにする。</p>

指導計画の作成

（１）指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活に即した具体的で分かりやすい内容を取り上げ、社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え、説明したり表現したりするなど、自ら意欲的に取り組むことのできる活動の充実を図ること。

イ 各教科等との関連を図り、指導の効果を高めるようにするとともに、小学部の生活科の学習との関連を踏まえて、系統的・発展的に指導できるようにすること。

ウ コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにすること。

内容の取扱い

（２）２の各段階の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 各学校においては、地域の実態を生かして、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習を通し、自分の生活と結び付けて考えたことをまとめることで知識が深まるようにすること。

イ ２の内容については、以下の各事項について配慮するものとする。

（ア）アについては、集団生活を送る上で必要とされる人との関わりやきまりを守ることについて理解できるようにするとともに、主体的に社会参加するための基礎的な力を養うこと。

（イ）イについては、身近な公共施設を取り上げ、その役割や利用できる制度を知ることで、よりよい社会生活を送ることができるようにすること。

（ウ）ウについては、地域の実態に応じて、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から取り上げ、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるようにすること。

（エ）エについては、身近な仕事を通して生産や販売について関心をもつこと。また、生活を支える事業について取り扱うことで、節水や節電の必要性を感じて取り組もうとすること。

（オ）オについては、地図の扱いに慣れるようにすること。また、主な文化財や年中行事の中から具体的事例を取り上げ、その特色が大まかに分かるようにすること。

（カ）カについては、我が国や諸外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うようにすること。

各教科の目標と内容：中学部 数学

		<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。 (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数と計算	2段階	整数の概念や性質について理解を深め、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法、乗法及び除法の意味や性質について理解し、それらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について知り、数量とその関係を表したり読み取ったりすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	数を構成する単位に着目して、数の表し方やその数について考えたり、扱う数の範囲を広げ、計算の仕方を見だし、筋道立てて考えたりするとともに、日常生活の問題場面を数量に着目して捉え、処理した結果を場面をもとに振り返り、解釈及び判断する力を養う。	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	1段階	3位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。	数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
図形	2段階	二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図や構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、図形を構成する要素に着目し、図形の計量について考察する力を養う。	図形や数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	1段階	三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。	図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
変化と関係	2段階	二つの数量の関係や変化の様子を表や式、グラフで表すことについて理解するとともに、二つの数量の関係を割合によって比べることについての技能を身に付けるようにする。	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、変化の特徴に気づき、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察したり、割合を用いて考察したりする力を養う。	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
測定	1段階	身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。	身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。	数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
データの活用	2段階	データを表や棒グラフ、折れ線グラフで表す表し方や読み取り方を理解し、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。	身の回りの事象について整理されたデータの特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。	データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	1段階	身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を養う。	データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【内容】

	数と計算	図形	測定（２段階は「変化と関係」）	データの活用
2 段階	<p>ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 4 位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。</p> <p>㉟ 10 倍、100 倍、$\frac{1}{10}$ の大きさの数及びその表し方について知ること。</p> <p>㊱ 数を千の単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。</p> <p>イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 3 位数や4 位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。</p> <p>㉟ 加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。</p> <p>㊱ 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p> <p>ウ 整数の乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 1 位数と1 位数との乗法の計算ができ、それを適切に用いること。</p> <p>㉟ 交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p> <p>エ 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 除法が用いられる場合や意味について理解すること。</p> <p>㉟ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>㊱ 除法と乗法との関係について理解すること。</p> <p>㊲ 除数と商が共に1 位数である除法の計算ができること。</p> <p>㊳ 余りについて知り、余りの求め方が分かること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p> <p>オ 小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 小数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。</p> <p>㉟ $\frac{1}{10}$ の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活で生かすこと。</p> <p>カ 分数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ $\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$ など簡単な分数について知ること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活で生かすこと。</p> <p>キ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。</p> <p>㉟ □などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ること。</p> <p>㊱ □などに数を当てはめて調べること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係に着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。</p>	<p>ア 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。</p> <p>㉟ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。</p> <p>㊱ 基本的な図形と関連して角について知ること。</p> <p>㊲ 直線の平行や垂直の関係について理解すること。</p> <p>㊳ 円について、中心、半径及び直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。</p> <p>イ 面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 面積の単位 [平方センチメートル (cm²)、平方メートル (m²)、平方キロメートル (km²)] について知り、測定の意味について理解すること。</p> <p>㉟ 正方形及び長方形の面積の求め方について知ること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 面積の単位に着目し、図形の面積について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。</p> <p>ウ 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。</p> <p>㉟ 角の大きさの単位 (度 (°)) について知り、測定の意味について理解すること。</p> <p>㊱ 角の大きさを測定すること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 角の大きさの単位に着目し、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりすること。</p>	<p>ア 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察すること。</p> <p>イ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の関係を考察すること。</p>	<p>ア データを表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読んだりすること。</p> <p>㉟ データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること。</p> <p>㊱ 表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解すること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。</p> <p>㉟ 目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすること。</p>
	1 段階	<p>ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 1000 までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。</p> <p>㉟ 3 位数の表し方について理解すること。</p> <p>㊱ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。</p> <p>㊲ 3 位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読み理解したり、数を表したりすること。</p> <p>㊳ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。</p> <p>イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 2 位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。</p> <p>㉟ 簡単な場合について3 位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。</p> <p>㊱ 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>㊲ 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p> <p>ウ 整数の乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 乗法が用いられる場合や意味について知ること。</p> <p>㉟ 乗法が用いられる場合を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>㊱ 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。</p> <p>㊲ 乗法九九について知り、1 位数と1 位数との乗法の計算ができること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。</p>	<p>ア 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 直線について知ること。</p> <p>㉟ 三角形や四角形について知ること。</p> <p>㊱ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。</p> <p>㊲ 正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。</p> <p>㊳ 直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。</p> <p>㊴ 基本的な図形が分り、その図形をかいたり、簡単な図表を作ったりすること。</p> <p>㊵ 正方形、長方形及び直角三角形をかいたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方をもとに、図形の性質を見いだし、身の回りのものの形を図形として捉えること。</p>	<p>ア 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。</p> <p>㉟ 長さの単位 [ミリメートル (mm)、センチメートル (cm)、メートル (m)、キロメートル (km)] や重さの単位 [グラム (g)、キログラム (kg)] について知り、測定の意味を理解すること。</p> <p>㊱ かさの単位 [ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)] について知り、測定の意味を理解すること。</p> <p>㊲ 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。</p> <p>イ 時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>㉞ 時間の単位 (秒) について知ること。</p> <p>㉟ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。</p> <p>(4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㉞ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活で生かすこと。</p>

各教科の内容：中学部 数学（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

	数と計算	図形	測定（２段階は「変化と関係」）	データの活用
2 段階	<p>1 段階で学習した十、百を単位とした数のまとまりに着目した学習を踏まえながら、数の範囲を4位数までに広げて、十進位取り記数法による数の表し方や数の相対的な大きさについて指導し、数の概念や性質の理解を深めることができるようにする。</p> <p>○ 整数の表し方 整数の表し方については、10000 までの数について、十進位取り記数法による数の表し方や数の大小、順序などについて調べる活動から始まり、やがて、十進位取り記数法の特徴を基に、具体物を操作しながら、一つの数を10倍（10個集める）、100倍（100個集める）、1/10（等しく10個に分割）した大きさをつくると、その数字の並びは変わらないことや、対応する数字の単位の大きさは、それぞれ10倍、100倍、1/10した関係（例えば、23を10倍すると、十の位の2が百の位に、一の位の3が十の位にくるという関係）に着目することができるようにし、十進位取り記数法についての理解を深めることができるようにする。大きさの比較については、等号不等号（$=$、$<$）の用語についても扱う。</p> <p>○ 整数の加法及び減法、整数の乗法及び除法 整数の加法及び減法については、3位数や4位数について扱い、数学的活動は、1段階で示した活動に準ずる。整数の乗法については、長さやかさなどの量にも用いられることを理解し、乗法が用いられる場面を判断して適切に用いることができるようにする。</p> <p>整数の除法については、除数と商が1位数の場合の除法を扱い（例えば、$8 \div 2$ や $35 \div 5$ などの乗法九九を1回用いて商を求めることができる計算）、除法が用いられる実際の場面を通して、具体物を操作しながら除法の意味（包含除や等分除）を調べる活動から始まり、やがて、\divの記号を用いながら除法の場面を式に表したり、式を読み取ってその場面を図や具体物を用いて表したりすることができるようにする。</p> <p>余りがある場合は、具体物を操作する活動を通して、余りの大きさは除数よりも小さくなることについて理解することができるようにする。</p> <p>○ 小数及び分数の表し方 小数の表し方については、日常の生活場面で目している小数で表された靴のサイズや体重、1.5Lのペットボトルなどを取り上げながら、1段階の「測定」で経験した学習と関連付けて、端数部分の大きさを表すのに、十進位取り記数法の仕組みを基に、1を10等分した単位（0.1）をつくる活動から始まり、やがて、その単位の幾つ分かで端数部分を表すことができるようにする。ここで、「1/10の位」という用語と意味、小数点について指導する。また、整数の数直線と関係付けて指導し、小数の理解を深めるようにする。</p> <p>○ 数量の関係を表す式 図に表された数量の関係を読み取ってそれを式に表したり、式に表された数量の関係を読み取ってそれを図に表したりする活動を通して、加法と減法、乗法と除法の相互関係について、式と図を関連付けて捉えたり、説明したりする活動から始まり、やがて、未知の数量を表す\squareなどの記号を用いて文脈通りに数量の関係を表式したり、\squareに当てはまる数を調べたりすることができるようにする。</p>	<p>図形を構成する要素の関係に着目し、辺の長さの相等や角の大きさの相等に着目して二等辺三角形、正三角形について知るとともに、角について知ることねらいとしている。また、図形の面積の単位と測り方、図形の面積の求め方、角の単位と測り方について指導する。</p> <p>○ 図形 基本的な図形についての指導では、二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図する活動に始まり、やがて辺の長さに着目して三角形の特徴を捉えることができるようにし、二辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形、三辺の長さが等しい三角形を正三角形ということが理解できるようにする。</p> <p>円については、円による模様作りなどの活動から始まり、コンパスの操作に慣れて確実に円をかくことができるようにする。やがて、こうした活動を通して円周上のどの点も中心から等距離にあることに気づき、次第に半径や直径は無数にあることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 面積 面積の単位と測り方では、単位図形を隙間なく重ならないように敷き詰める活動から始まり、やがて1段階の普通単位の幾つ分かで大きさを決めるという見方・考え方を働かせて、敷き詰めた単位図形の個数によって数値化したしり、単位図形の1辺の長さの単位を手がかりに単位を選んだりすることができるようにする。</p> <p>面積の測定も長さやかさ、重さと同様に単位を決めればそれを基準に測定した数で表せることや、面積は計算によって求められるが、計器を用いて直接数値化できないことに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 角の大きさ 角の大きさの単位と測り方では、三角定規などの角を対象に重ねて同じ大きさであることや大小を比べる活動から始め、半直線を回転させているいろいろな大きさの角をつくり、分度器の目盛り構造を調べて単位を知り、分度器で測定したりできるようにする。その際、角の大きさの理解においては、図形の辺の長さの大小と角の大きさの大小とを混同して捉えることがあるため、一つの頂点から出る2本の辺が作る形を角といき、頂点を中心にして1本の辺を回転させたとき、その回転の大きさを角の大きさということを理解することができるようにする。</p>	<p>「変化と関係」では、表や式の表し方と数量関係の比べ方について指導する。</p> <p>○ 伴って変わる二つの数量 表や式の表し方の指導では、例えば、和が一定の場合や差が一定の場合など、伴って変わる二つの数量の関係について表を用いて調べる活動から始まり、やがて積や商が一定の場合を調べたり、変量を用いて調べる活動を通して、二つの数量の関係について、絵図にかき表して考えることやグラフによって確かめることができるということに気づき、変量を表す記号として\squareや\bigcircなどを用いて式に表すことができるようにする。</p> <p>○ 二つの数量の関係 数量関係の比べ方の指導では、清涼飲料水に含まれる果汁の割合や消費税、割引セールなどの生活の中にある割合を示す事象を探る活動から始め、やがて割合に着目してどちらが多く果汁が入っているのか、どちらが安く買うことができるのかなどについて考えることができるようにする。</p>	<p>「データの活用」では、身の回りにある事象について、目的に応じて観点を決め、資料を分類整理して、これを表や棒グラフを用いて表したり、読み取ったりすることについて指導する。</p> <p>○ データを表やグラフで表したり、読み取ったりすること 身の回りにある事象について、日時、曜日、時間や場所などの観点から分類の項目を選び、分かりやすく整理することを通して、表の意味を理解し、表を用いて表したり、表を読み取りする活動から始まり、やがて、表と関連付けながら、棒グラフで表すことができるようにする。さらに、数量の大小や差などを読むことに加えて、最大値や最小値をとらえたり、項目間の関係、集団のもつ全体的な特徴などを読み取ったりすることができるようになる。</p> <p>グラフの活用にあたっては、事象の変化や全体の傾向をつかむのに便利であることなどに気づき、例えば、一日の気温の様子を1時間ごとの目盛をとってグラフに表すとき、棒グラフと折れ線グラフのどちらを用いるとよいかを考えるなど、集めたデータと分析の目的に応じて適切なグラフや表を選択して表し、そこから読み取ることができるようになる。</p>
1 段階	<p>小学部で学習した数のまとまりに着目した数の数え方や比べ方、表し方の内容を踏まえながら、数の範囲を3位数まで広げて、数の概念について理解を深めるとともに、数の乗法的な見方についても指導する。</p> <p>1,000についても扱い、十進位取り記数法の原理についての基礎的な理解を図る。</p> <p>計算では、十を単位としてみる見方に着目して、2位数の加法及び減法の計算ができるようにし、計算機による数の表し方や加法及び減法の計算についても指導する。簡単な場合の3位数などの加法及び減法も取り扱い、2段階で学習する3位数や4位数の計算の仕方を考えることにつなげるようにする。</p> <p>乗法九九についても指導する。</p> <p>○ 整数の表し方 整数の表し方については、1,000までのものの数を、小学部算数科で学習した幾つずつにまとめて数える方法を活用し、手際よく正確に数える方法について考えを深めたり、色や形、位置、種類などに着目しながら分類して数えたりする活動から始まり、やがて、10ずつまとめて数え、それをさらに10のまとまりとして100と数える方法から、3位数を100のまとまり、10のまとまりの個数と端数として表すことができるようにし、十進位取り記数法の素地を養う。</p> <p>数直線についても扱い、「測定」領域のものさしの学習と関連させて理解を促しながら、数直線を用いて、数の大小や順序、系列についても理解することができるようにする。</p> <p>○ 整数の加法及び減法 整数の加法及び減法については、2位数の加法及び減法を扱う実際の場面から計算の意味を理解し、小学部3段階で学習した計算の仕方を基にして、2位数の加法及び減法の計算の仕方を考えたり筆算を用いて処理したりする活動から始まり、やがて、簡単な場合について、3位数の加法及び減法の計算の仕方を考えることができるようにする。</p> <p>計算機については、計算機を使用しながら数や計算についての理解を深めていくという観点と、計算能力を補う観点から活用できるようにする。</p> <p>○ 整数の乗法 乗法については、小学部3段階で学習した幾つずつにまとめる数え方を発展させ、乗法が用いられる実際の場面を通して、累加（同じ数を何回加える加法）としての乗法の意味（一つの大きさの何倍かに当たる大きさを求めること）を調べる活動から始まり、やがて、\timesの記号を用いながら乗法を用いる場面を式に表して乗法九九を構成したり、式を読み取ってその場面を図や具体物を用いて表したりすることができるようにする。</p>	<p>図形を構成する辺や頂点の数に着目して、図形を弁別することを指導する。平面図形としては、正方形、長方形、直角三角形について指導する。図形を構成する要素として、直線、直角、頂点、辺及び面という用語について理解させ、用語を用いて図形の性質を表現することができるようにし、要素をもとにして実際に図形を構成したり、かいたり、基礎となる図形を構成する要素に着目し、それをもとに考えていく態度を養う。</p> <p>○ 図形 身の回りのものの中から、三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形の形をしたものを取り出してみる活動から始まり、やがて格子状に並んだ点を線でつないで正方形、長方形、直角三角形をかいたり、ひごを並べたり、紙を折ったり、色紙を並べたりする活動を通して、体験的に図形を構成する要素を捉えることができるようにする。これまで三角、四角と捉えていた直線について、3本の直線で囲まれていた形を三角形といき、4本の直線で囲まれている図形を四角形ということ約束する。</p> <p>直線については、図形について理解する上で基礎となる概念であるので、定規を使って直線を引くなどの活動を十分行って、技能を身に付けることができるように指導する。</p> <p>平面図形で構成する立体図形について理解する素地的な学習活動として箱の形について指導する。具体物の観察などを通して、頂点、辺、面という構成要素に着目させ、箱の形には正方形、長方形の形をした面があることに気づき、面と面の間に辺があり、辺が集まったところに頂点があることを体験的に気付くことができるようにする。</p>	<p>長さや体積（かさ）、重さの単位と測り方及び時間の単位と時刻や時間の求め方について指導する。</p> <p>○ 量の単位と測定 長さやかさ、重さの単位と測り方の指導では、小学部3段階における任意単位の幾つ分かで長さを数値化した経験に基づき、普通単位を基準に数値化した活動から始まり、やがてものさしの目盛りの原点を対象の端に当てること、リットルまずに注いだ液体の上面と重なる目盛りや自動上皿ばかりの針が指している目盛りを見付けることなどを知り、計器を用いて測ったり、対象に応じた単位を選んだりすることができるようにする。</p> <p>○ 時刻と時間 時間の単位と時刻や時間の求め方の指導では、10秒程度の短い時間を計る活動や朝の食や給食の時間などの身近な生活場面の開始や終了時刻を模型時計で表す活動から始まり、やがて1分が60秒であるという関係をつかむとともに、1時間後や前の時刻などを模型時計で表したり、時刻と時刻の間にある時間を、時計の文字盤の目盛りや数直線表示を手がかりに求めたりすることができるようにする。</p>	<p>具体的な活動を通して、身の回りにある数量を分類整理し、それを簡単な表やグラフを用いて表したり、表やグラフから数が最も多い、少ないなどの特徴を読み取ったりすることについて指導する。</p> <p>○ 簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること 身の回りにある数量について、データを整理する観点を定め、分類整理する活動から始まり、やがて、簡単な表で表したり、簡単な記号を並べたグラフで表したりすることができるようにする。</p> <p>分類整理して数えたものを、表であればそれの数値で表したり、グラフであれば\bigcircなどの簡単な絵や記号を並べて表したりすることにより、数値に注目して比較したり、並べた絵や記号の長さに注目して比較したりするなどに、視覚的にわかりやすくなることに気づき、次第に、最も多いなどの特徴を読み取るなど、表やグラフの読み取り方の基礎を培うとともに、有用性についても実感できるようにする。</p>

【数学的活動の指導に当たっての配慮事項】

	1段階	2段階
数学的活動	<p>ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>(7) 日常生活の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動</p> <p>(イ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、式などを用いて表現し伝え合う活動</p>	<p>ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。</p> <p>(7) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数学の学習に関わる活動</p> <p>(イ) 日常の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、表及び式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動</p> <p>(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、表、式などを用いて表現し伝え合う活動</p>

各教科の内容：中学部 数学（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

(1) 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育むべき資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数学的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。
- イ 数量や図形についての基礎的な能力の維持や向上を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。また、段階間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習指導を進めるようにすること。
- ウ 2の内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の指導の間の関連を図ること。

内容の取扱い

(2) 2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各段階の内容の指導に当たっては、具体物、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。
- イ 「A数と計算」の指導に当たっては、具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。
- ウ 1段階の内容に示す事項については、次の(7)から(ウ)までに留意するものとする。
 - (7) 内容の「A数と計算」のイについては、必要な場合には、() や□などを用いることができるものとする。
 - (イ) 内容の「C測定」のA及び「Dデータの活用」のAについては、必要な場合には、温度計や体温計の目盛りの読み方やデータのまとめ方を取り扱うものとする。
 - (ウ) 内容の「C測定」のAの(7)の㉔については、任意の単位を用いた比較や基準容器で正確に計量する技能を指導することに配慮するものとする。
- エ 2段階の内容に示す事項については、次の(7)から(ウ)までに留意するものとする。
 - (7) 内容の「A数と計算」のイ及びウについては、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、計算の結果の見積もりについても触れるものとする。
 - (イ) 内容の「B図形」のAの(7)の基本的な図形については、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を通して、図形に関心をもたせるよう配慮するものとする。コンパスを取り扱う際には、生徒の障害の状態等に配慮するものとする。
 - (ウ) 内容の「Dデータの活用」のAについては、いろいろな表やグラフに触れるとともに、式やグラフが、事象の変化や全体の傾向をつかむのに便利であることに気付くよう配慮するものとする。

数学的活動の指導

(3) 数学的活動の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 数学的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、数学を学ぶことの楽しさを実感したりするために、重要な役割を果たすものであることから、2の内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す事項については、数学的活動を通して指導するようにすること。
- イ 数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を生活に活用することなどについて実感する機会を設けること。

各教科の目標と内容：中学部 理科

		<p>自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。</p> <p>(3) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。</p>		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目 標	A 生 命	2段階 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境の関わりについて見いだした疑問を進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。
	1段階 身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	
B 地 球・ 自 然	2段階 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	
	1段階 太陽と地面の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	太陽と地面の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	太陽と地面の様子について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	
C 物 質・ エ ネ ル ギ ー	2段階 水や空気の性質についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	水や空気の性質について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	水や空気の性質について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	
	1段階 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	

【内容】

	生命	地球・自然	物質・エネルギー
2 段階	<p>ア 人の体のつくりと運動 人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊧ 人の体には骨と筋肉があること。</p> <p>㊨ 人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。</p> <p>(4) 人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p> <p>イ 季節と生物 身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。</p> <p>㊧ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。</p> <p>(4) 身近な動物の活動や植物の成長の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>ア 雨水の行方と地面の様子 雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。</p> <p>㊧ 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。</p> <p>(4) 雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさと関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p> <p>イ 天気の様子 天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること。</p> <p>㊧ 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。</p> <p>(4) 天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p> <p>ウ 月と星 月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過に着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わること。</p> <p>㊧ 空には、明るさや色の違う星があること。</p> <p>(4) 月の位置の変化と時間の経過との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>ア 水や空気と温度 水や空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。</p> <p>㊧ 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。</p> <p>(4) 水や空気の体積や状態の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>
1 段階	<p>ア 身の回りの生物 身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。</p> <p>㊧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。</p> <p>(4) 身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。</p>	<p>ア 太陽と地面の様子 太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 日陰は太陽の光を遮るとできること。</p> <p>㊧ 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。</p> <p>(4) 日なたと日陰の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち、表現すること。</p>	<p>ア 物と重さ 物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。</p> <p>㊧ 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。</p> <p>(4) 物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気付き、物の性質についての疑問をもち、表現すること。</p> <p>イ 風やゴムの力の働き 風やゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。</p> <p>㊧ ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。</p> <p>(4) 風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。</p> <p>ウ 光や音の性質 光や音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 日光は直進すること。</p> <p>㊧ 物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること。</p> <p>㊨ 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。</p> <p>(4) 光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、光や音の性質についての疑問をもち、表現すること。</p> <p>エ 磁石の性質 磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。</p> <p>㊧ 磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。</p> <p>(4) 磁石を身の回りの物に近づけたときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、磁石の性質についての疑問をもち、表現すること。</p> <p>オ 電気の通り道 電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と、乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。</p> <p>㊧ 電気を通す物と通さない物があること。</p> <p>(4) 乾電池と豆電球などをつないだときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、電気の回路についての疑問をもち、表現すること。</p>

各教科の内容：中学部 理科（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

	生命	地球・自然	物質・エネルギー
2 段階	<p>ア 人の体のつくりと運動 骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらを関係付けて、人や他の動物の体のつくりと運動との関わりを調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察や実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験などを基に予想する力や生命を尊重する心情や態度、学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。 ※ア (2)の「A 生命」のアの「人の体のつくりと運動」の(7)の④については、関節の働きを扱うものとする。</p> <p>イ 季節と生物 動物を探したり植物を育てたりしながら、動物の活動や植物の成長の様子と季節の変化に着目して、それらを関係付けて、身近な動物の活動や植物の成長と環境との関わりを調べることを通して、季節ごとの動物の活動や植物の成長の変化についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、予想する力や生物を愛護する心情や態度、学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。 ※イ (2)の「A 生命」のイの「季節と生物」については、1年を通しての動物の活動や植物の成長を観察や映像資料などで指導するものとする。</p>	<p>ア 雨水の行方と地面の様子 生徒が、水の流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて、雨水の行方と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、予想する力や学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p> <p>イ 天気の様子 生徒が、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて、天気や自然界の水の様子を調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、予想する力や学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。 ※ウ (2)の「B 地球・自然」のイの「天気の様子」の(7)の⑦については、二つのデータを同時に扱うようなグラフや表は扱わないこと。</p> <p>ウ 月と星 生徒が、月の位置の変化や時間の経過に着目して、それらを関係付けて、月や星の特徴を調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、予想する力や学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p>	<p>ア 水や空気と温度 生徒が、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて、水や空気の性質を調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、予想する力や学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p>
1 段階	<p>ア 身の回りの生物 身の回りの生物について探したり育てたりする中で、これらの様子や成長の過程に着目して、それらと比較しながら、生物と環境との関わり、昆虫や植物の成長のきまりを調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に差異や共通点を基に、疑問をもつ力や生物を愛護する態度、主体的に日常生活などに生かそうとする態度を育成することがねらいである。 ※ア (2)の「A 生命」のアの「身の回りの生物」については、次のとおり取り扱うものとする。 (7) (7)の④については、飼育、栽培を通して行うこと。 (4) (7)の④の「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと。</p>	<p>ア 太陽と地面の様子 生徒が、日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら、太陽の位置と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにするとともに、主に差異点や共通点を基に、疑問をもつ力や学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。 ※イ (2)の「B 地球・自然」のアの「太陽と地面の様子」については、太陽の位置は、東から南、西へ変化することを扱うものとする。</p>	<p>ア 物と重さ 生徒が、物の形や体積に着目して、重さを比較しながら、物の性質を調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、疑問をもつ力や学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p> <p>イ 風やゴムの力の働き 生徒が、風とゴムの力と物の動く様子に着目して、それらと比較しながら、風とゴムの力の働きを調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、疑問をもつ力や学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p> <p>ウ 光や音の性質 生徒が、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの現象の違いを比較しながら、光と音の性質について調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、疑問をもつ力や学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p> <p>エ 磁石の性質 生徒が、磁石を身の回りの物に近づけたときの様子に着目して、それらと比較しながら、磁石の性質について調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、疑問をもつ力や学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。</p> <p>オ 電気の通り道 生徒が、乾電池と豆電球などのつながり方と乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつながり方と比較しながら、電気の回路について調べる活動を通して、それらについての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、疑問をもつ力や学んだことを日常生活に生かそうとする態度を育成することがねらいである。 ※ウ (2)の「C 物質・エネルギー」の指導に当たっては、ものづくりを通して行うものとする。 ・ 風やゴムの力の働きを活用したものづくりとしては、風やゴムの力を動力に変換するという観点から、例えば、風やゴムの力で動く自動車や風車などが考えられる。 ・ 光の性質を活用したものづくりとしては、日光により物の明るさや暖かさが変わるという観点から、例えば、平面鏡を使って物を明るくしたり暖かくしたりする装置などが考えられる。 ・ 音の性質を活用したものづくりとしては、音は、様々な物が震えることで伝わるという観点から、例えば、離れた所や同時に複数の場所に音声を伝える糸電話などが考えられる。 ・ 磁石の性質を活用したものづくりとしては、磁石の異極は引き合い、同極は退け合うという観点から、例えば、極の働きや性質を使って動かす自動車や船などが考えられる。 ・ 乾電池や豆電球などを使った、電気の性質を活用したものづくりとしては、回路ができることと電気が通るという観点から、例えば、回路につないだ豆電球などを動作させたり止めたりするスイッチ、電気を通す物であるかどうかを調べるテスターなどが考えられる。</p>

各教科の内容：中学部 理科（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

（１） 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどの、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ること。
- イ 各段階で育成を目指す思考力、判断力、表現力等については、当該段階において育成することを目指す力のうち、主なものを示したものであり、実際の指導に当たっては、他の段階で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。

内容の取扱い

（２） ２の（３）の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 実験を行うに当たっては、身の回りのことや生活に関わる簡単なものを取り扱うこと。
- イ 生物、天気などに関する指導に当たっては、自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、生命を尊重し、身の回りの自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすること。
- ウ 天気などに関する指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解が図られるようにすること。
- エ 理科で学習することが様々な職業などと関係していることにも触れること。
- オ 博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図ること。

（３） 観察、実験などの指導に当たっては、事故防止に十分留意すること。また、環境整備に十分配慮すること。

各教科の目標と内容：中学部 音楽

<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を考えたことや、曲や演奏のよさなどを見だしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>				
目 標	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	2段階		音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見だしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。
	1段階		音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。	進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

【内容】

	A 表現			B 鑑賞	
	歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞	
2段階	<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘について理解すること。</p> <p>㉗ 曲名や曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり</p> <p>(5) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 歌詞やリズム、音の高さを意識して歌う技能</p> <p>㉘ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う技能</p> <p>㉙ 独唱と、斉唱及び簡単な輪唱などをする技能</p>	<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘について理解すること。</p> <p>㉗ 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり</p> <p>(5) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能</p> <p>㉘ 打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する技能</p> <p>㉙ 友達や楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能</p>	<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。</p> <p>㉗ 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>㉘ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。</p> <p>㉗ いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴</p> <p>㉘ リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方や重ね方の特徴</p> <p>(5) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</p> <p>㉘ 音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる技能</p>	<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘の関わりについて理解すること。</p> <p>㉗ 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 曲名や歌詞と体の動きとの関わり</p> <p>(5) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする技能</p> <p>㉘ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせる技能</p> <p>㉙ 友達と動きを相談して、合わせて表現する技能</p>	<p>ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>(4) 曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。</p>
1段階	<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合った表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘について気付くこと。</p> <p>㉗ 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり</p> <p>(5) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする技能</p> <p>㉘ 発声の仕方に気を付けて歌う技能</p> <p>㉙ 友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能</p>	<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合った表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘について気付くこと。</p> <p>㉗ 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 楽器の音色と全体の響きとの関わり</p> <p>(5) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能</p> <p>㉘ 音色や響きに気を付けて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能</p> <p>㉙ 友達や楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p>	<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。</p> <p>㉗ 音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。</p> <p>㉘ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くこと。</p> <p>㉗ いろいろな音の響きの特徴</p> <p>㉘ リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方の特徴</p> <p>(5) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</p> <p>㉘ 音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる技能</p>	<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。</p> <p>(4) 次の㉗及び㉘の関わりについて気付くこと。</p> <p>㉗ 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり</p> <p>㉘ 曲名や歌詞と体の動きとの関わり</p> <p>(5) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。</p> <p>㉗ 示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする技能</p> <p>㉘ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせる技能</p> <p>㉙ 友達と動きを合わせて表現する技能</p>	<p>ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だして聴くこと。</p> <p>(4) 曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。</p>

各教科の内容： 中学部 音楽（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

	A 表現				B 鑑賞
	歌唱	器楽	音楽づくり	身体表現	鑑賞
2段階	<p>中学部1段階で身に付けた歌唱分野の資質・能力を広げていくことについて示し、独唱をしたり、教師や友達と斉唱や輪唱などを行ったりする活動を通して、曲想と歌詞のイメージとの関わりを感じたり、全体の響きを感じ、自分の歌い方を考えながら友達と合わせて表現したりすることなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、曲の特徴や歌詞に表されている情景などを捉えて、それに近づくためにどのように表現したいかを考えて、自分の声の出し方や友達との合わせ方、合わせることの楽しさや美しさに気付くよう指導する。</p>	<p>打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識し、曲のリズムや速度、その曲のもつ雰囲気などを捉えて、友達の楽器の音も聴きながら一緒に合わせて演奏することなどをねらいとしている。また、簡単な楽譜などを使って、友達と一緒に音を合わせて演奏することなどをねらいとしている。</p> <p>これらのねらいを実現するためには、曲想と音楽の構造との関わりや、多様な楽器の音色と全体の響きとの関わりを理解して、自分がどのように演奏したいか思いや意図がもてるよう指導する。</p>	<p>設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして、まとまりのある音楽をつくることなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、いろいろな音の響きの特徴やその組み合わせの特徴、リズム・パターンや旋律のつなぎ方や重ね方に気付かせることを大切にしなが、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たり、音を音楽へと構成することについて思いや意図をもてるように指導することが大切である。</p>	<p>1段階で身に付けた身体表現分野の資質・能力をさらに伸ばさせることについて示したものである。また、2段階では、1段階を踏まえ、身体表現活動を通して、リズムの特徴や曲想に合わせて表現するとともに、友達と協力して、主体的な動きを引き出すことなどがねらいとなる。</p> <p>このねらいを実現するためには、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取る力を中心として、自ら工夫しながら、友達と動きを合わせて表現することを指導することが大切である。</p>	<p>曲や演奏のよさを見出して曲全体を味わって聴くことなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、様々なジャンルの音楽を聴いたり、演奏していることを見たりする活動を通して、曲想と音楽の構造等との関わりについて理解し、曲や演奏のよさを言葉などで表現できるよう指導する。</p>
1段階	<p>小学部3段階で身に付いた資質・能力を広げていくことについて示し、歌詞を学んだり、範唱を聴いたり、友達と一緒に歌ったりする活動を通して、友達と声を合わせてよりよい表現をすることなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、自分がその曲を聴いたり、歌詞を学んだりする中で、その曲に対して受けた印象や、「このように歌いたい」という思い、聴き取った要素から「こんなふうに表現しよう」という思いや意図をもち、自分の発声の仕方など自分自身の表現のどこに注意を向けるかに気付くよう指導する。</p>	<p>打楽器や旋律楽器を使って、簡単な楽譜などを見て、友達と一緒に音を合わせて演奏することなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、曲の雰囲気と音楽の構造との関わりや、音色と全体の響きなどを意識し、友達とリズムや速度を合わせて全体の響きがよくなるために、自分がどのように演奏したいかという思いや意図がもてるよう指導する。</p>	<p>設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして、簡単な音楽をつくることなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、いろいろな音の響きの特徴や、リズム・パターンや旋律のつなぎ方に気付かせることを大切にしなが、音や音楽を構成することについて思いや意図をもてるように指導することが大切である。</p>	<p>小学部の3段階を踏まえ、身体表現活動を通して、リズムの特徴や曲想に合わせて表現してみようとする、主体的な動きを引き出すような身体表現の活動を進めることなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取りながら、示範を見て体を動かすことや、友達と動きを合わせて表現することを指導することが大切である。</p>	<p>音楽を形づくっている要素と曲の特徴とを関連付けて聴くことなどをねらいとしている。</p> <p>このねらいを実現するためには、曲想とリズムや速度、旋律の特徴などの関連に気付き、曲や演奏のよさを見いだせるよう指導する。</p>

【共通事項】：共通事項とは、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示したものである。1段階及び2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導の過程において、各事項と併せて十分な指導が行われるよう工夫することが必要である。

(1) 1段階と2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。
- イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

各教科の内容：中学部 音楽（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

（１）指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育むべき資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。
- イ ２の目標及び内容の「Ａ表現」のＡからエまでの指導については、（ア）、（イ）及び（ウ）の各事項を、「Ｂ鑑賞」のＡの指導については、（ア）及び（イ）の各事項を、適切に関連させて指導すること。
- ウ ２の目標及び内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の各事項の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。
- エ ２の目標及び内容の「Ａ表現」のＡからエまで及び「Ｂ鑑賞」のＡの指導については、適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。
- オ 国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導すること。
- カ 各段階においては、生徒の発達の段階と生活年齢を考慮すること。

内容の取扱い

（２）２の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 各段階の指導に当たっては、音や音楽との一体感を味わえるようにするため、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れるようにすること。
- イ 各段階の指導に当たっては、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る指導を工夫すること。その際、生徒の言語理解や発声・発語の状況等を考慮し、必要に応じてコンピュータや教育機器も効果的に活用すること。
- ウ 生徒が学校内及び公施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるような機会をつくるなど、生徒や学校、地域の実態に応じて、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。
- エ 合奏や合唱などの活動を通して、和音のもつ表情を感じることができるようにすること。また、長調及び短調の曲においては、Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ及びⅦなどの和音を中心に指導すること。
- オ 我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、楽譜や音源等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方など指導方法について工夫すること。
- カ 各段階の「Ａ表現」のＡの歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
 - （ア）生徒の実態や学習状況及び必要に応じて適宜、移動ド唱法を取り上げるようにすること。
 - （イ）成長に伴う声の変化に気付くことができるよう、変声期の生徒に対して適切に配慮すること。
- キ 各段階の「Ａ表現」のイの楽器については、次のとおり取り扱うこと。
 - （ア）各段階で取り上げる打楽器は、簡単に操作できる楽器、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、生徒の実態や発達の段階を考慮して選択すること。
 - （イ）１段階で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、鍵盤楽器などの中から生徒の実態や発達の段階を考慮して選択すること。
 - （イ）２段階で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、鍵盤楽器や和楽器、電子楽器などの中から生徒の実態や発達の段階を考慮して選択すること。
 - （イ）合奏で扱う楽器については、リズム、旋律、和音などの各声部の演奏ができるよう、楽器の特性を生かして選択すること。
- ク 各段階の「Ａ表現」のウの音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
 - （ア）音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。
 - （イ）どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導すること。
 - （イ）つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること。記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導すること。
 - （イ）拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを生徒の実態に応じて取り上げるようにすること。
- ケ 各段階の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、気付いたり感じたりしたことを体の動きで表現したり、絵にかいたり、言葉で表現したりできるよう指導を工夫すること。
- コ ２の目標及び内容の〔共通事項〕の（１）のＡに示す「音楽を形づくっている要素」については、生徒の発達の段階や指導のねらいに応じて、次の（ア）及び（イ）を適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて適切に指導すること。
 - （ア）音楽を特徴付けている要素

㉞ 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど

(イ) 音楽の仕組み

㉞ 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

サ [共通事項] の(1)のイに示す「音符、休符、記号や用語」については、生徒の実態や学習状況を考慮して取り扱うこと。

シ 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(7) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲

(イ) 主となる歌唱教材については、各段階とも(ウ)の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲

(ウ) 共通教材

㉞ 1段階の共通教材は、次に示すものとする。

「うさぎ」(日本古謡)、「茶つみ」(文部省唱歌)、「春の小川」(文部省唱歌)、「ふじ山」(文部省唱歌)、「さくらさくら」(日本古謡)、「とんび」、「まきばの朝」(文部省唱歌)、「もみじ」(文部省唱歌)

㉞ 2段階の共通教材は、次に示すものとする。

「こいのぼり」(文部省唱歌)、「子もり歌」(日本古謡)、「スキーの歌」(文部省唱歌)、「冬げしき」(文部省唱歌)、「越天楽今様(歌詞は第2節まで)」(日本古謡)、「おぼろ月夜」(文部省唱歌)、「ふるさと」(文部省唱歌)、「われは海の子(歌詞は第3節まで)」(文部省唱歌)

ス 器楽教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(7) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、指導のねらいとの関係において適切であり、身近で親しみのもてるもの。

(イ) 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含め、主旋律に簡単なリズム伴奏や低音部を加えた曲。

セ 音楽づくりの教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(7) 生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた指導のねらいとの関係において適切であり、身近で親しみのもてるもの。

ソ 音や音楽の特徴を身体表現にするために適した教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(7) 主となる教材については、既習の歌唱教材や器楽教材を含め、音や音楽を聴いて体を動かすことができるものを中心に、生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた指導のねらいとの関係において適切であり、親しみのもてるもの。

タ 鑑賞教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(7) 主となる鑑賞教材については、既習の歌唱教材や器楽教材を含め、生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、曲想を感じ取り、情景を思い浮かべやすい、いろいろな種類の曲。

(イ) 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、曲の雰囲気や音楽の構造に気付きやすい曲。

(ウ) 楽器の音色や人の声の表現の違いなどによる演奏の特徴が聴き取りやすい、いろいろな演奏形態による曲。

各教科の目標と内容：中学部 美術

目 標	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 造形的な視点について理解し、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。 (2) 造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。 (3) 創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。			
	2段階	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	1段階			

【内容】

	A 表現	B 鑑賞	共通事項
2段階	ア 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。 (イ) 材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	ア 自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。 (イ) 表し方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること。	ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。 (イ) 造形的な特徴などからイメージを捉えること。
1段階	ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。 (イ) 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	ア 自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。 (イ) 表し方や材料による印象の違いなどに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。	ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。 (イ) 造形的な特徴などからイメージをもつこと。

各教科の内容： 中学部 美術（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

	A 表現	B 鑑賞	共通事項
2段階	<p>1段階の学習を進展させて、自然や日常生活の中にある身近な対象や経験、想像したことなどを基に表したいことや表し方を考えて発想や構想する「思考力、判断力、表現力等」の育成と、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表す「技能」を育成することをねらいとしている。</p> <p>1段階における、見たことや感じたことが直接経験によって得られる表現の題材であれば、2段階では、直接経験したことだけでなく想像したことを題材として表現することを指しており、内容を進展させ広げて示している。</p> <p>指導に当たっては、明確な手順どおりに表すだけでなく、試しながら表したり、次第に表したいことや用途などが明確になったりするような指導を工夫する必要がある。その際、例えば、生徒がつくりながら立ち止まって周りを見る姿、画用紙の上で指を動かしながら考える様子など、その生徒なりに発想や構想をする姿を捉えることなどが考えられる。また、教師の共感的な言葉かけにより、イメージを少しずつはっきりさせていくことも大切である。</p>	<p>1段階の学習を進展させ、美術作品なども対象として、これらの鑑賞の活動を通して、造形的なよさや面白さを感じ取ったり、表し方や材料による特徴の違いなどを捉えたりして、自分の見方や感じ方を深める「思考力、判断力、表現力等」を育成することをねらいとしている。</p> <p>一人一人の生徒が自分の見方や感じ方を大切に、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくりだせるようにすることが大切である。また、表現の学習と関連させて、鑑賞と発想や構想をする学習の双方に重なる中心となる考えを軸に、発想や構想の学習で表したいことや表し方について学んだことを生かして見方や感じ方を深められるようにすることも効果的である。</p> <p>美術作品などの美しさに親しみをもち、鑑賞を深めていくためには、造形作品に表現されている色や形、用途や装飾などに関心をもって、表現の面白さや美しさを感じ取れるようにすることが大切である。そのためには、ふだんから校内の鑑賞の環境を整え、児童生徒の作品や美術作品などに触れる機会をつくるように配慮することが大切である。</p>	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の学習において共通に必要なとなる資質・能力として、(7)の造形的な視点を豊かにするための「知識」と(イ)の「思考力、判断力、表現力等」を育成することをねらいとしている。</p> <p>〔共通事項〕の(7)の指導事項に示された内容について理解したことが、生徒一人一人の造形的な視点を豊かにし、表現したり鑑賞したりするときの手掛かりにつながるものが大切である。</p> <p>造形の要素に着目して、その働きを捉える造形的な視点を豊かにすることは、美術科の学習活動だけでなく、生徒が生活や社会と主体的にそして豊かに関わられるようになることであり、自分の世界を広げるということにつながる。</p>
1段階	<p>自然や日常生活の中にある身近な対象や経験から、特徴や印象よさや面白さなどを感じ取ったり考えたりしたことなどを基に、表したいことや表し方を考えて発想や構想をする「思考力、判断力、表現力等」の育成と、材料や用具扱いに親しみ、それらを表したいことに合わせて選んで使い表す「技能」を育成することをねらいとしている。</p> <p>表現においては、主観性の強い表現に加えて、客観的に目的に合わせて表現することが必要な内容も取り扱われる。例えば、自然の形や幾何学的な形を並べたり、繰り返したりして、模様や装飾に関心をもち、伝達機能をもつポスターなどの平面デザインでは、知らせる事項を考え、形や色彩の組合せを工夫するなどして表現することなどである。</p> <p>絵や版画の題材としては、静物や風景の観察や描写、学校行事や社会行事などの印象、想像画などがあり、版画の方法としては、木版、ゴム版、リノリウム版などがある。デザインの題材としては、ポスター、案内表示・標識、表紙装丁デザイン、カット、模様・装飾などがある。</p> <p>つくることに関する指導では、主に、彫刻などの立体に表すこと、生活に役立つ器物をつくることなどであり、生徒の感性や、材料の性質、用具の特性を生かして表現したり、工芸品の制作などでは制作工程や手順が分かり、完成の見通しをもつてつくったりすることである。</p> <p>彫刻や立体の題材としては、人、動物、乗り物、建物などが、工芸品の題材としては、箱、筆立て、ペン皿、焼き物の器物などが挙げられる。</p> <p>表現の方法としては、塑像や焼成工程のある器物の活用、いろいろな造形材料の性質を生かした加工、塗装加工などが挙げられる。</p> <p>飾ることに関する指導内容は、つくった作品を教室や廊下の掲示板上に展示することや、実際に使用して、造形表現が生活に役立つことを経験し、関心を深めたり、愛着心をもって扱ったりすることである。</p>	<p>自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、造形的なよさや面白さや、表し方や材料による印象の違いなどに気づき、自分の見方や感じ方を広げる「思考力、判断力、表現力等」を育成することをねらいとしている。</p> <p>中学部段階の生徒は、生活範囲の広がりや生活経験の積み重ねに応じて、鑑賞の対象が広がり、「木片が面白い形をしている」、「雲や光の動きがきれいだな」など、対象や事象と自分の印象を分けて捉えている姿が見られる。そこには自分の好みや判断なども加わっている。また、他の生徒の作品から自分の考えが異なる点を見つけて、その思いを汲み取ったり、自分の表現に生かしたりする。また、感じ取ったことや想像したことなどを誰かに話したり、他の生徒と共感し合ったりする姿も見られる。このようなこの時期の生徒の実態等を踏まえて、豊かな鑑賞の活動となるようにすることが大切である。</p> <p>指導に当たっては、生徒が自分で見つけたよさや面白さを、生徒自身が自ら気付くようにし、鑑賞の学習だけでなく、表現の学習にも生かせるように指導を工夫する。また、表現の活動の際に生徒が身近な材料を手にとり眺める、制作途中の作品を見て材料を取り換えるなどは、表現と鑑賞が自然に進められている姿である。完成した作品だけでなく、後日の学習の初めに途中の作品を見合う時間を取り入れることや、授業時間以外でも制作途中の作品が鑑賞できるようにすることも考えられる。</p> <p>指導に当たっては〔共通事項〕のAの指導事項と関連させて、形や色彩に着目し、造形の要素の働きを捉えさせることで見方や感じ方を上げられるようにすることも効果的である。また、この段階の生徒は、身近な材料などを見たり、触ったりすることから感じ取った面白さや楽しさを自然に言葉にしたり、友だちの話を聞いたりしながら、楽しむ姿が見られる。鑑賞の活動においては、友だちの作品を見たり共同制作に取り組んだりすることで、見方や感じ方を広げることになる。</p>	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の学習において共通に必要なとなる資質・能力として、(7)の造形的な視点を豊かにするための「知識」と(イ)の「思考力、判断力、表現力等」を育成することをねらいとしている。</p> <p>(7)は、「知識及び技能」の「知識」について示している。</p> <p>造形的な視点を豊かにするために、形や色彩、材料、光などの特徴について知ることに関する指導事項であり、第1段階では、特に内容に示す各事項の定着を図ることを重視している。</p> <p>〔共通事項〕に示されている内容を、単に新たな事項として知ることや言葉を暗記することに終始するものではなく、生徒一人一人が表現及び鑑賞の活動の学習過程を通して、個別の感じ方や考え方等に応じながら活用し身に付けたり、新たな学習過程を経験することを通して再構築されていくものとなることが重要である。</p>

各教科の内容：中学部 美術（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

（１）指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。
- イ ２の各段階の内容の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、相互の関連を図るようにすること。
- ウ ２の各段階の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の各事項の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。
- エ ２の各段階の内容の「Ａ表現」の指導に当たっては、適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。
- オ ２の各段階の内容の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、感じたことや思ったことを伝え合うなど、周りの人と共有できる機会を設けるようにすること。
- カ ２の各段階の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、生徒や学校の実態に応じて、地域の美術館を利用するなど、連携を図るようにすること。また、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料等の活用を図ること。

内容の取扱い

（２）２の各段階の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 「Ａ表現」の指導に当たっては、材料や用具の安全な使い方について指導するとともに、活動場所を事前に点検するなどして、事故防止について徹底すること。
- イ 生徒が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。
- ウ 「Ａ表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して生徒が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造する態度を養うようにすること。
- エ 各活動において、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。
- オ 「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の学習を通して学んだことが、生活や社会の中で生かせるようにすることや、作品や用具等を大切に扱うことを理解して使えるよう指導すること。
- カ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。
- キ 材料については、地域の身近にある材料なども取り上げ、指導すること。
- ク 作品を校内の適切な場所に展示するなどし、日常の学校生活においてそれらを鑑賞することができるよう配慮すること。また、学校や地域の実態に応じて、校外に生徒の作品を展示する機会を設けるなどすること。

各教科の目標と内容：中学部 保健体育

目 標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって運動に親しむことや、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。		
	2段階	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	1段階	学びに向かう力、人間性等	学びに向かう力、人間性等

	A 体づくり運動	B 器械運動	C 陸上運動	D 水泳運動	E 球技	F 武道	G ダンス	H 保健
2 段階	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、その行い方を理解し、友達と関わったり、動きを継続する能力などを高めること。 イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 イ 器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	陸上運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 イ 陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	水泳運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 水泳運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。 イ 水泳運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 水泳運動に積極的に取り組み、きまりなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 イ 球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。 イ 武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 武道に積極的に取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。 イ ダンスについての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ ダンスに積極的に取り組み、友達のを認め助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。 イ 自分やグループの健康・安全についての課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
1 段階	体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを継続する能力などを高めること。 イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 器械・器具を使った運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	陸上運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	水泳運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 イ 初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 初歩的な泳ぎに積極的に取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 イ 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。 イ 武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ 武道に積極的に取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア ダンスの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。 イ ダンスについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ ダンスに積極的に取り組み、友達のを認め協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。 イ 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。

各教科の内容： 中学部 保健体育（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

	A 体づくり運動	B 器械運動	C 陸上運動	D 水泳運動	E 球技	F 武道	G ダンス	H 保健
2 段階	<p>「体ほぐしの運動」では、手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自分や友達のと体の状態に気付いたり、友達と豊かに関わり合ったりすること。</p> <p>「体の動きを高める運動」では、体力の向上をねらいとして、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うこと。</p>	<p>「基本的な技」とは、マット上で連続後転や開脚後転をしたり、鉄棒で補助逆上がりをしたり、跳び箱で開脚跳びをしたりなどのことである。</p> <p>次の(7)から(9)までの運動で構成されている。</p> <p>(7) マット運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続後転 ・開脚後転 ・壁倒立 <p>(8) 鉄棒運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助逆上がり ・前回り下り <p>(9) 跳び箱運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び 	<p>2段階での陸上運動における「基本的な技能」とは、短距離走やリレー、長距離走、ハードル走、跳ぶ運動などに取り組むために必要な、全力走や一定のペースで走り続けること、また、リズムカルに走り越えるなどのことである。一人ひとりの状態に応じて、目標を設定し、用具を工夫して、生徒が安心して取り組むことができるよう工夫することが大切である。</p>	<p>「基本的な技能」とは、補助具を使いながら、泳法の基礎となる手足の動きや呼吸をしながら水中を進むことである。泳法にスムーズにつながるためにも、このような泳ぎにしっかりと取り組むことが大切である。</p>	<p>「基本的な技能」とは、ゴール型、ネット型、ベースボール型などのボール操作及びボールを持たないときの動きのことである。「基本的な技能」を身に付けることによって、簡易化されたゲームをできるようにすることが大切である。</p>	<p>1段階と同様に柔道、剣道、相撲などで構成されている。</p> <p>技能の高まりに応じて、基本となる技を用いた練習を發展させて、技を身に付け、簡易な攻防を展開できるようにする。</p> <p>1段階での「基本動作や基本となる技」を受けて、基本動作や技のバリエーションを増やしていくこともねらいとなってくる。</p>	<p>「基本的な技能」とは、軽快なリズムに乗って全身で弾んで踊ることや、日本の民謡や外国の踊りの基本的なステップや動きのことである。それぞれのダンスの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流できるようにすることが大切である。</p>	<p>「体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し」とは、1段階の内容について自ら行動できるようになることであり、気持ちが意欲的であること、元気なこと、具合の悪いところがないこと、などの心と体の調子が良い状態にあることを理解し実践できるようにすることが大切である。</p> <p>「自分やグループの健康・安全の課題を見付け」とは、一日の生活リズムを整え、運動、食事、休養および睡眠などについて自分や友達の課題と一緒に考えたり、部屋の明るさの調節や換気などの生活環境について考えたりすることである。</p> <p>不安や悩みなどがある時には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、友達と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることなど心の健康について触れることも大切である。</p>
1 段階	<p>「体ほぐしの運動」では、手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自分や友達のと体の状態に気付いたり、みんなで豊かに関わり合ったりすること。</p> <p>「体の動きを高める運動」では、自分の課題を見付け、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うこと。</p>	<p>「基本的な動きや技能」は、マットの上で連続前転や後転をしたり、低鉄棒で足抜き回りをしたり、跳び箱で腕立て横跳び越しをしたり、平均台で方向転換をしたりすることである。</p> <p>次の(7)から(11)までの運動で構成されている。</p> <p>(7) マット運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続前転 ・後転 ・傾斜を作った場を使った開脚前転 <p>(8) 鉄棒運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足抜き回り ・高鉄棒にぶら下がって体を前後に振って跳ぶ <p>(9) 跳び箱運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕立て横跳び越し <p>(10) 平均台を使った運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろに方向転換 ・ポーズ 	<p>「基本的な動きや技能」とは、短距離走やリレー、長距離走、ハードル走などに取り組むために必要な、自分の能力に合った適切な、全力走や走り続けること、走り超すなどのことである。一人ひとりの状態に応じて、用具の工夫をすると共に、自分の目標を設定し、生徒が安心して取り組むことができるよう工夫することが大切である。</p>	<p>「基本的な動きや技能」とは、浮く、浮きながら進む、もぐる運動などのことである。</p> <p>「初歩的な泳ぎ」とは、補助具を使いながら足泳ぎやかえる足泳ぎなど、近代泳法の前段階となる泳ぎのことである。このような泳ぎでは浮きながら手や足を使って進むことが大切であり、泳法の手や足の動かし方などの泳形にこだわる必要がない泳ぎである。</p> <p>「基本的な動きや技能」とは、全身の力を抜き脱力し体を浮かすことや体を一直線に伸ばすことで、水の抵抗が少なくスムーズに進むこと、また補助具を使って自力で水中を移動することである。これらの感覚を身に付けたり、体験することで水に対する恐怖感をなくし、安心して泳ぐことにつながる大切である。</p>	<p>「基本的な動きや技能」とは、「基本的なボール操作」及び「ボールを持たないときの動き」で構成されており、「基本的なボール操作」は、シュート・パス（ゴール型）、パス・返球（ネット型）、打球・捕球（ベースボール型）など、攻防のためにボールを操作する技能のことである。</p> <p>「ボールを持たないときの動き」とは、空間・ボールの落下点・目標（区域や塁など）に走り込むなど、ボール操作に至るための動きや守備の動きに関する技能のことである。</p>	<p>柔道、剣道、相撲などで構成されている。</p> <p>「基本動作」とは、例えば柔道では、姿勢と組み方、受け身（横受け身）などのことであり、剣道では、構え、体さばき、打突の仕方（正面打ち、胴（右）の打ち）とその受け方などのことであり、相撲では、蹲踞（そんきょ）姿勢、塵浄水（ちりじょうず）、四股（しこ）、腰割り、中腰の構え、運び足などのことである。</p> <p>指導に当たっては、生徒がイメージをつかみやすいように手本を見せたり、VTRなどを視聴したりして、正しい動作を身に付けることができるように配慮することが大切である。</p>	<p>「基本的な動きや技能」とは、身近な音楽や軽快なリズムに乗って全身で弾んで踊ったり、友達と自由に関わり合ったりして楽しく踊ったり、簡単なフォークダンスをしたりすることなどである。</p>	<p>身体測定の結果や性徴を通して体の発育に関心をもち、身体各部の働きを知る。</p> <p>けがの簡単な手当の仕方を知る。</p> <p>運動やゲームの後で汗をふいたり、うがいをしたりするなど、病気の予防や健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>進んで身体及び身辺の清潔に気を付けたり、寒暖に応じて着衣を調節したりする。</p> <p>体調を考えて適切な運動をしたり、栄養が偏らないようにバランスのとれた食事をし、食べ過ぎないようにして健康的な生活を送ることができるようにする。</p> <p>自分の体調の変化を捉え、けがや病気の際には、教師や友達に伝える。</p> <p>消毒薬や体温計を適切に使ったり、薬を指示に応じて服用したりできるようにする。</p> <p>一日の生活リズムに合わせて運動、食事、休養および睡眠をとることや、部屋の明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることを理解できる。</p>

各教科の内容：中学部 保健体育（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

(1) 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 各段階の内容のまとめを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自他の課題を見付け、個々の生徒の障害の状態等に応じて、その解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう、留意すること。

イ 「A体づくり運動」及び「H保健」については、3学年間にわたって取り扱うこと。

内容の取扱い

(2) 2の各段階の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 学校や地域の実態を考慮するとともに、個々の生徒の障害の状態等、運動の経験及び技能の程度などに応じた指導や生徒自らが運動の課題の解決を目指す活動を行えるよう工夫すること。

イ 運動を苦手と感じている生徒や、運動に意欲的に取り組まない生徒への指導を工夫すること。

ウ 「A体づくり運動」から「Gダンス」までと「H保健」との関連を図る指導を工夫すること。

エ 「E球技」については、個の能力だけでなく、より集団を意識したゲームを取り扱うものとする。

オ 「F武道」については、武道場や用具の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、安全面に十分留意すること。

カ 自然との関わりの深い雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動などの指導については、生徒の障害の状態等、学校や地域の実態等に応じて積極的に行うようにすること。

オ オリンピック・パラリンピックなどとも関連させ、フェアなプレイを大切にするなど、生徒の発達の段階に応じて、運動やスポーツの大切さや必要性等に触れるようにするとともに、運動やスポーツを「すること」、「知ること」、「見ること」、「応援すること」などの多様な関わり方について取り扱うようにすること。

各教科の目標と内容：中学部 職業・家庭

		<p>生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。</p>		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目 標	職業分野	2段階	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
			働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
	1段階	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
		職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。
家庭分野	2段階	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
		家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。	家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。
1段階	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
	家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。	家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	

【内容】

	職業分野			家庭分野		
	A 職業生活	B 情報機器の活用	C 産業現場等における実習	A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	C 消費生活・環境
2 段階	<p>ア 働くことの意味 働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 働くことの意味などを理解すること。</p> <p>(4) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。</p> <p>(9) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。</p> <p>イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 職業に関する知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>⑦ 職業生活に必要な知識や技能を理解すること。</p> <p>⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。</p> <p>⑨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関する基礎的な技術について理解すること。</p> <p>⑩ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。</p> <p>⑪ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。</p> <p>(4) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。</p> <p>⑧ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。</p> <p>⑨ 職業生活に必要な健康管理について考えること。</p>	<p>職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。</p> <p>イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。</p>	<p>実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 職業や進路に関することについて調べて、理解すること。</p> <p>イ 職業や職業生活、進路に関することについて、自己の成長などについて考えて、発表すること。</p>	<p>ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。</p> <p>(4) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にしている気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。</p> <p>イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。</p> <p>ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における健康や余暇に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。</p> <p>(4) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。</p> <p>エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。</p> <p>(4) 家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付く、表現すること。</p>	<p>ア 食事の役割 楽しく食事をするための工夫などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。</p> <p>(4) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。</p> <p>イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。</p> <p>(4) バランスのとれた食事について気付く、献立などを工夫すること。</p> <p>ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。</p> <p>(4) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。</p> <p>エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。</p> <p>(4) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。</p> <p>オ 快適で安全な住まい方 住まいの整理・整頓や清掃などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。</p> <p>(4) 季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付く、工夫すること。</p>	<p>ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。</p> <p>(4) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫すること。</p> <p>イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。</p> <p>(4) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。</p>
1 段階	<p>ア 働くことの意味 働くことに関心をもち、作業や実習等に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 働くことの意味などを理解すること。</p> <p>(4) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。</p> <p>(9) 作業や実習等で達成感を得ること。</p> <p>イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 職業に関する知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>⑦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。</p> <p>⑧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。</p> <p>⑨ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関する基礎的な技術について知ること。</p> <p>⑩ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。</p> <p>⑪ 作業の持続性や巧緻性等を身に付けること。</p> <p>(4) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。</p> <p>⑧ 作業に当たり安全や衛生について気付く、工夫すること。</p> <p>⑨ 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。</p>	<p>職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。</p> <p>イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。</p>	<p>実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 職業や進路に関することについて関心をもちたり、調べたりすること。</p> <p>イ 職業や職業生活、進路に関することについて、気付く、他者に伝えること。</p>	<p>ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。</p> <p>(4) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にしている気持ちを育み、よりよい関わり方について気付く、それらを他者に伝えること。</p> <p>イ 家庭生活と役割 家庭の中での役割などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。</p> <p>(4) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付く、それらを他者に伝えること。</p> <p>ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする。</p> <p>(4) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付く、工夫すること。</p> <p>エ 幼児の生活と家族 幼児と接することなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。</p> <p>(4) 幼児への適切な関わり方について気付く、それらを他者に伝えること。</p>	<p>ア 食事の役割 食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 健康な生活と食事の役割について知ること。</p> <p>(4) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付く、それらを他者に伝えること。</p> <p>イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。</p> <p>(4) 簡単な調理計画について考えること。</p> <p>ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする。</p> <p>(4) 日常着の着方や手入れの仕方に気付く、工夫すること。</p> <p>エ 快適な住まい方 持ち物の整理や住まいの清掃などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする。</p> <p>(4) 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付く、工夫すること。</p>	<p>ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。</p> <p>(4) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うことなどについて知ること。</p> <p>イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(7) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする。</p> <p>(4) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。</p>

各教科の内容：中学部 職業・家庭（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

	職業分野			家庭分野		
	A 職業生活	B 情報機器の活用	C 産業現場等における実習	A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	C 消費生活・環境
2 段階	<p>1段階での学習を踏まえ、自分と他者との関係から、役割を理解し協力しようとする意欲を育むことを付加している。また、職業に関わる事項について、実際の場面において必要となる事柄を考えたり、体験したりする学習を通して身に付けることをねらいとしている。</p> <p>作業を通してお互いの動きを見ながら声をかけ合う、合図をするなど、他者と協力し、集団内で協働した活動ができるよう段階的に指導することが大切である。</p> <p>様々な仕事や職業生活を支える仕組みについて調べたり、自分が将来働きたい仕事に就くためにどんな力を付けたらよいかを考えたり、実際の職業生活を知り自分の行動や生活を見直したりするなど、作業や職業生活に関わる具体的な課題を解決するために工夫をすることなどが考えられる。</p>	<p>1段階での学習を踏まえ、情報機器を使用した学習活動を通して、これらの操作方法に慣れるとともに、これらを活用して必要な情報を集め、まとめたり、体験したことや考えを表現したりする力を育むことをねらいとしている。</p> <p>情報通信ネットワークを活用する際に、SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）や通信用アプリケーション・ソフトの適切な使い方等についても触れ、インターネット上の情報収集や情報発信が自分の生活に及ぼす影響が分かり、情報機器を使用する際のルールやマナー、人権侵害の防止、危険を回避する具体的な方法などを身に付け、適切な使用ができるよう、個々の生徒の実態に応じて指導することが重要である。</p>	<p>職場見学や校内実習に加え、就業体験、産業現場等における実習など、生徒が事業所等で、職業や仕事の実践について体験したり、働く人々と接したりする活動を通して、職業や進路などについて理解したり、考えたりすることを重視している。</p>	<p>1段階での学習を踏まえ、家庭生活の中での自分の役割を理解し、学習で得た知識や技能を実生活の中で実践できることをねらいとしている。また、家庭と地域との関わりについて知り、地域生活との関わりを深めることをねらいとしている。</p> <p>よりよい家庭生活とはどのような生活かを考え実践できるように、調べ学習や、教師や友達、家族との対話などを通して学習を進めることが重要である。</p> <p>家族一人一人が家庭内の仕事や役割を果たしていることや、家庭生活が思いやりや愛情によって支え合っていることが大切である。</p> <p>単に地域の人と関わるだけでなく、活動を通して地域の特色や文化、産業などのよさに気付くとともに、地域の人々との関わりを大切にす気持ちや地域に積極的に関わろうとする意欲をもてるようにすることが大切である。</p> <p>近隣の人々や身近な環境との関わりを大切にすることにより、よりよい生活が実践できることに気付くよう指導を工夫することが重要である。</p>	<p>1段階での学習を踏まえ、家庭生活の基本となる衣食住に関する5つの項目についての理解を深め、実際の生活の中で活用し実践できるようにすること、また自己の課題と向き合い、よりよく改善するために考え、表現したり、協力して取り組もうとしたりする態度を育成することをねらいとしている。</p> <p>日常の食事に興味をもち課題点をあげたり、1日の生活の中で3食を規則正しくとり、栄養や食品をバランスよくとることの重要性を理解したり、自己の食事の改善点や解決方法を考えたりできるようにすることが必要である。</p> <p>生徒の生育歴や障害の特性、またアレルギー等により、食の嗜好やこだわり、食事における配慮事項等に個人差があることを十分留意し、実態に応じていくことが大切である。</p> <p>調理工程やグループの役割分担など事前に計画を立てるとともに、調理計画に沿って手順よく活動したり、協力することや作業が進むことが理解できるようにしたりすることが大切である。</p> <p>ガスや火の扱いに対する注意、まな板や布巾の取扱いは衛生面における基本事項を必ず取り扱うようにする。</p> <p>食品の保存方法と保存期間の関係については、食品の腐敗や食中毒の原因と関連付けて理解できるようにする。</p>	<p>1段階での学習を踏まえ、買物やリサイクルなどの活動を通して、日常生活と環境との関わりについて気付く、自分だけでなく、自分の周りの人も安心して安全に暮らせる社会にするため、自分や家族の生活を振り返り、環境に配慮した消費生活について考えることをねらいとしている。</p> <p>必要で適切な物を無駄なく選んだり、使い切ったりする経験を積み重ねるようにすることが大切である。</p> <p>使用目的を理解した上で、予算内に暮らせる社会にするために必要な消費生活について考える必要がある。</p> <p>電子マネーやプリペイドカードなど現金以外の支払い方について知り、その適切な取扱いについて指導することなど、社会の様々な進歩に合わせて、生徒が生活をしていく上で必要な事柄を取り上げて指導していくことが重要である。</p>
1 段階	<p>特に小学部の「生活科」の内容構成である「役割」や「手伝い・仕事」の内容との関連を踏まえ、働くことの意義や職業に関わる知識や技能について、体験を通して知り、身に付けるとともに、課題を主体的に解決しようとする意欲を育むことをねらいとしている。</p> <p>作業などを通して働く喜びを知るとともに、職場見学、就業体験等を通して、働いて物を作ったり、育てたりすることが社会に役立つこと、将来、働くことを通して自立的な社会参加ができることなどをできるようにする。</p> <p>作業工程表等を用いて活動内容や終了の確認を行うなど、生徒自身が必要な情報に気付く、判断したり、生徒同士で伝え合ったりする機会を設けることが大切である。</p> <p>一人一人の生徒が自分の力を発揮し、それぞれの活動が成し遂げられるような状況をつくる必要がある。</p> <p>生徒が自己の能力や性格に気付くためには、学習記録を通して自己の変容に気付くことや、周囲の人の評価や感想によって自分の成長を見つめ直す活動を設ける他、日頃のあらゆる場面において生徒の成長を捉え、タイミングを逃さずに認めたり、励ましたりしていくことを心がける必要がある。</p> <p>作業時の服装や姿勢、材料や道具及び機械の持ち方や扱い方などの作業の適切な実施方法を生徒の知的障害の状態、学習状況等を踏まえながら個別に指導することなどの工夫が大切である。</p> <p>手順の間違いや危険な取扱いなどについて必要に応じて取り上げ、適切な方法と対比しながら安全に生産等をするための要点に気付いたり、理解できるようにしたりする指導が大切である。</p>	<p>職場や学校、家庭において使用されている情報機器を対象に、その初歩的な知識や技能を身に付けるとともに、活用する経験を積むことをねらいとしている。</p> <p>情報機器を使用する際のルールやマナー、インターネット利用上のトラブルなどの危険性を回避する具体的な方法について理解を図るようにすることが重要である。</p> <p>音楽プレーヤー、ゲーム機、腕時計等にも情報通信機能が付加されているものがあることを踏まえ、その取扱いについても生徒指導と関連付けるなどして指導することも考えられる。</p>	<p>「産業現場等における実習」に向けて、「職場見学」や「校内実習」、「就業体験」などの実践的な学習活動と相互に関連付けながら実施することで、生徒が職業や進路に関わる事柄について関心をもち、それらについて考えたり、伝えたりする学習経験を積むことをねらいとしている。</p> <p>自分のよさや適性に気付き、日々の学習や将来の進路選択につなげるようにすることが重要である。</p> <p>実際の・体験的な活動を重視して、将来的に自立した生活がどのようなものになるのかということや、職場や家庭などでの過ごし方の実際を知ったり、それぞれの生活において必要となる事柄を身に付けていくよう指導することが大切である。</p>	<p>「協力・協働」の視点を踏まえて、自分の成長に気付くとともに、家庭生活での役割などを知り自分自身や家族等に関する理解を深めることや、役割を果たすことを通して様々な事柄に自分から取り組もうとする意欲を高めること、自分自身に対する自信を深めることをねらいとしている。</p> <p>家庭には衣食住や家族に関する仕事があることや、自分や家族の生活を支えていることに気付く、家族が協力し分担する必要があることが分かるようにすることが大切である。学習を通して、自分の成長を支えてくれる家族の存在に気付く、感謝の気持ちをもてるようにするとともに、生活時間の有効な使い方についても理解できるように指導することが大切である。</p> <p>生徒によって家族構成や家庭生活の状況が異なることから各家庭のよさを認め、各家庭や生徒のプライバシーを尊重し、十分配慮しながら取り組むようにする。</p> <p>家庭の中で、自分でできることを行うことによって自分の役割を果たすことが家族の役に立つことを実感し、自分なりに工夫することが重要である。</p> <p>友達と共に楽しむことや、地域の公共施設等を利用したり、地域行事に参加したりする体験などを通して、他者との関わりや活動の幅が広がるよう指導することも大切である。</p> <p>生徒が主体的に余暇を選択できるよう有益で多様な余暇活動を体験させながら興味・関心を広げること、実際に余暇活動を選択する経験を積むことなどが大切である。</p> <p>「幼児の生活と家族」に関する学習は1段階のみの設定であるが、2段階における「家族や地域の人々の関わり」の内容とも、関連性をもたせて指導することが必要である。</p>	<p>「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」の視点を踏まえ、家庭生活の基本となる「衣食住の生活」に関する基礎的な内容を、「食事の役割」「調理の基礎」「衣服の着用と手入れ」「快適な住まい方」の4項目で示し、それらの内容を理解するとともに、自ら実践しようとする意欲や主体性を引き出すことをねらいとしている。</p> <p>心身の状態により、食べる量が異なるなど、個人差があることに十分留意した上で、健康を維持する側面から、必要な栄養や食事を適切にとることに気付けるようにすることが重要である。</p> <p>食事は健康な身体づくりだけでなく、気持ちや心の安定にも大きな役割があることに気付けるようにする。</p> <p>食事を楽しくすることが適切な量の食事をとることとも深く関連することなどを踏まえて指導する必要がある。</p> <p>電子レンジやホットプレートのように電気で加熱できるものなど、一般の家庭で身近に使用できる加熱用調理器具などを使うようにすることも大切である。</p> <p>簡単な調理を通して、調理の過程や料理のでき上がりや味、食べ方について関心をもち、自分で調理しようとする意欲につながるよう指導することが大切である。</p> <p>季節や気温に応じた衣服の選択、汚れた衣服の始末や洗濯物の整理など、基本的な衣服の取扱いについて体験を通して学び、学校生活や家庭生活において実践できるように指導する。</p> <p>2段階では、洗濯機や乾燥機などを使用した衣服の手入れまで発展させて指導することに留意する必要がある。</p> <p>「快適な住まい方」において、「住まいの主な働き」として、教室や家庭内にある窓や換気扇、照明器具や日よけ、カーテンなどの役割、室内の整理・整頓や清掃について取り扱う。</p>	<p>主に「持続可能な社会の構築」の視点から、買物やリサイクルなどの身近な活動を通して、自分や家族、身近な他者の生活を振り返り、家庭生活と環境との関わりについて気付くことや、自分だけでなく、家族や地域の人々がよりよく生活するために、自分ができることを実践しようとする態度を育成することを示している。</p> <p>例えば、いつ、だれと、どこで、どのような買物をする機会があるのかを把握するなど、生徒の実際の生活から個々の課題を見いだした上で目標を設定することなどが必要となる。</p> <p>また、校内に模擬店を設置したり、身近でよく利用するお店で保護者等に頼まれた品物を購入したりするなど、実際の体験を重視し、知識や技能の確実な習得を図ることが大切である。</p>

各教科の内容：中学部 職業・家庭（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成

(1) 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようすること。その際、作業や実習など体験的な活動と知識とを相互に関連付けてより深く理解できるようにすること。
- イ 職業分野及び家庭分野に示された各段階の目標・内容については、分野相互の関連を図り、総合的に展開されるよう適切に計画すること。その際、小学部の生活科をはじめとする各教科等とのつながりや、中学部における他教科等との関連を重視することや高等部における職業科、家庭科、情報科等の学習を見据え、系統的に指導できるよう計画すること。
- ウ 生徒一人一人のキャリア発達を促していくことを踏まえ、発達の段階に応じて望ましい勤労観や職業観を身に付け、自らの生き方を考えて進路を主体的に選択することができるよう、将来の生き方等についても扱うなど、組織的かつ計画的に指導を行うこと。
- エ 地域や産業界との連携を図り、実際の学習活動や就業体験、実習等を計画的に取り入れること。産業現場等における実習については、校内での作業や就業体験等と関連させ、段階的・系統的に指導するよう配慮すること。

内容の取扱い

(2) 2の各段階の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 実習の指導に当たっては、施設・設備の安全・衛生管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いと事故防止の指導を徹底するものとする。その際、適切な服装や防護眼鏡・防塵マスクの着用等による安全の確保に努めること。
- イ 職業分野
職業分野の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - (7) 基礎的な知識及び技能を習得し、その理解を深めることで概念が育まれるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得できるよう、実践的・体験的な学習活動を充実すること。
 - (4) 生徒が習得した知識や技能を生活に活用できるよう、問題解決的な学習を充実するとともに、家庭や地域との連携を図ること。
 - (4) 職業生活や家庭生活に必要な生きて働く知識や技能及び態度の形成に重点を置いた指導が行われるように配慮すること。
 - (エ) 職業生活における余暇については、家庭生活における余暇と関連させて指導すること。
 - (オ) 「B 情報機器の活用」については、家庭生活における情報機器の取扱いについても留意して指導すること。
- ウ 家庭分野
家庭分野の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - (7) 食に関する指導では、職業・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資すること。
 - (4) 幼児と関わるなどの校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意するものとする。
 - (4) 調理に用いる食品については、安全・衛生に留意すること。また、食物アレルギーについても配慮すること。

各教科の目標と内容：中学部 外国語

目 標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 (3) 外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
------------	---

【内容】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等		その他の外国語
(1) 英語の特徴等に関する事項	(2) 情報を整理しながら考えを形成し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項	
<p>実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと (7) 英語の音声を聞き、真似て声を出したり、話したりしようとする こと。 (4) 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの働きがあることを感じ取る こと。 (7) 基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝えることを感じ取ること。</p> <p>イ 日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと。 (7) 体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 (4) 対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとしたりすること。</p>	<p>具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。 イ 日常生活に関する簡単な事柄について、自分の気持ちや考えなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。</p>	<p>① 言語活動に関する事項 (2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。</p> <p>ア 聞くこと (7) アルファベットの発音を聞いて文字と結び付ける活動。 (4) 身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。 (7) 挨拶や簡単な指示に応じる活動。</p> <p>イ 話すこと〔発表〕 (7) 自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。 (4) 身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。</p> <p>ウ 話すこと〔やり取り〕 (7) 簡単な挨拶をし合う活動。 (4) 自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えを伝え合う活動。 (7) ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。</p> <p>エ 書くこと (7) 身近な事物を表す文字を書く活動。 (4) 例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。</p> <p>オ 読むこと (7) 身の回りで使われているアルファベットの文字や単語を見付ける活動。 (4) 日本の人の名前や地名の英語表記に使われているアルファベットを読む活動。</p> <p>② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。</p> <p>ア 言語の使用場面の例 (7) 特有の表現がよく使われる場面 ㊦ 挨拶をする ㊧ 自己紹介をする ㊨ 買物をする ㊩ 食事をする など (4) 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ㊦ ゲーム ㊧ 歌やダンス ㊨ 学校での学習や活動 ㊩ 家庭での生活 など</p> <p>イ 言語の働きの例 (7) コミュニケーションを円滑にする ㊦ 挨拶をする ㊧ 相づちを打つ (4) 気持ちを伝える ㊦ 礼を言う ㊧ 褒める (7) 相手の行動を促す ㊦ 質問する</p>	<p>その他の外国語については、外国語の2の内容の〔英語〕に準じて指導を行うものとする。</p>

各教科の内容： 中学部 外国語（内容別ポイント）

【内容別ポイント】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	
(1) 英語の特徴等に関する事項	(2) 情報を整理しながら考えを形成し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項
<p>例えば、英語の音声としては、英語の歌、文字、食べ物やスポーツ、生活用品などの名称などがある。基本的な表現としては挨拶、指示、質問などのうち初歩的なやり取りができるものを取り扱うことが大切である。</p> <p>授業では、実際にコミュニケーションを行う場を意図的に設定し、さまざまな相手とのやり取りを体験することができるような工夫が大切である。また、生徒の障害の状態や小学部での学習経験の有無などに応じて、言葉によらないジェスチャー・表情・サインなどを用いてのやり取りを用いることが大切である。</p> <p>国語科の知識及び技能として、中学部1段階では、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと、2段階では、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことが挙げられている。国語科と関連を図った指導を通して、日本語や英語に共通した働きがあることに徐々に気付いていくようにすることが大切である。</p>	<p>中学部の外国語科において身に付けるべき資質・能力は、コミュニケーションを図る素地であり、育成すべき思考力、判断力、表現力は、日常生活に関する簡単な事柄について、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うことである。知的障害者である生徒の場合は、簡単な表現の練習を十分に行った後に、具体的な活動場面で伝え合う活動を行い、相手を意識した意味のあるコミュニケーションを図ることができるように具体的な課題を設定することが大切である。</p> <p>生徒が場面に適さない表現をした場合でも、教師が代わりに適切な表現をしてみせ、場面に適した表現に気付かせるなど、生徒が表現しようとする意欲や自信を維持しながら活動を展開するようにすることが大切である。</p>	<p>中学部の外国語科では、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」「読むこと」の五つの領域での言語活動を示している。しかしながら、中学部で初めて外国語の学習をする生徒もいることから、小学部までの学習状況や生徒の実態等を考慮し、身近で簡単な事柄を中心に、聞いたり話したりする活動を基本としながら設定していくなどの配慮が重要である。</p> <p>聞き取りやすい声で、ゆっくりはっきり話すようにし、教師の音声をリピートさせながら、聞くことを意識させたり、友達の音声を聞いて何を示しているか聞き取ったりする活動が挙げられる。生徒に「聞いて分かった」という喜びを味わわせることが重要である。</p> <p>「One, two, three・・・」と数を数えたり、物に触って「warm/cold」などで表現したりするなど発表の内容を構成するところから体験的な活動を行うようにする。そうすることで、「分かったことを伝えたい(話したい)」という気持ちを大切にしながら話す活動に取り組ませることができるとともに、話すことに対する自信と意欲をもたせることができる。</p> <p>語句の意味が十分に理解できていなかったり、音声だけで応じることが難しい場合でも、教師のサポートを得ながら簡単な表現やその一部を発したり、動作に表したりすることを通して、相手の問いかけに応じようとする態度を育むことが大切である。</p> <p>生徒の実態によっては適宜サポートが必要だが、教師のサポートが多すぎてしまうとそれに頼りすぎてしまい、生徒のやり取りの相手がサポートしてくれている教師になってしまう場合があるので注意が必要である。どの場合においても話し手を意識させることができるように環境を整える必要がある。</p> <p>特に小文字については、混同しやすいものもあるので、間違いを指摘して意欲が失せないよう、取り扱う文字を精選したり、間違いやすいものは自ら気をつけられるように書く活動を工夫したりする必要がある。</p> <p>全ての文字が書けなくても、生徒の興味・関心を大切にし、自分の名前を書くことに対する意欲を生かしながら、書くことの楽しさを感じることができるように取り扱っていくことが大切である。また、名前を書いたら声に出して読んだり、教師が読むのを聞いたりするなど、生徒が自分の名前を書いたことを実感するように取り扱っていくことも大切である。</p> <p>活動に合わせて、文字に着目させるのか、単語のまとまりに着目させるのかを明らかにして文字や単語を提示することが必要である。</p> <p>文字には名称と語の中で用いられる場合の文字が示す音の二種類の読み方があるが、詳しく取り扱うことはせず、生徒が自ら気が付いた場合には、どちらの読み方もあることを伝える程度にとどめるようにする。</p>

各教科の内容：中学部 外国語（指導計画の作成と内容の取扱い）

指導計画の作成と内容の取扱い

（１）外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。

（２）指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

イ これまでに学習した外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成すること。

ウ 外国語科を設ける場合は、生徒の障害の状態や実態に応じて、指導目標を適切に定め、３年間を通して外国語科の目標の実現を図るようにすること。また、高等部における指導との接続に配慮すること。

エ 指導内容や活動については、生徒の興味や関心、経験などに合ったものとし、国語科や音楽科、美術科などの他教科等で生徒が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。

オ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制等の充実を図るとともに、指導方法を工夫すること。

カ 外国語を通して他者とコミュニケーションを図ることの必要性や楽しさを味わうことができるよう工夫すること。

（３）２の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 言語材料については、生徒に身近でなじみのある簡単なものから扱うようにするとともに、語、連語及び慣用表現については活用頻度の高いものを用い、必要に応じて繰り返し活用しながら体験的な理解を図るようにすること。

イ ２の内容のうち、主として言語や文化に関する内容の指導については、言語活動との関連を図るようにすること。その際、日本語と外国語との違いに生徒が気付くなど体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにすること。

ウ 生徒の実態や教材の内容などに応じて、情報機器等を有効に活用し適切な言語材料を十分に提供できるようにすること。